

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

放課後等デイサービスtuna
実施日：2023年3月20日

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善項目、工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○		一日の利用人数を10名までとし、活動スペース、学習スペース、静養スペースを確保している。活動内容によっては手狭になることがある。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			常時4名以上のスタッフを配置している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			車イスユーザーも通所できる立地、仕組みにしている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			毎日1時間程度の振り返りと、毎月全スタッフのミーティングを通じてブラッシュアップを実施している。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			アンケートやWebレポートシステムへの書き込みでご意向を把握し、スタッフ間で共有している。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			HP、Webレポートシステムへ掲載している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		法人監査及び、社員総会にて業務内容に対する外部評価を行い、事業計画に反映させている。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			月1回のミーティング及び、外部機関主催の研修に積極的に参加している。
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			短期から長期、生活面から社会性まで多角度に課題を集約し、段階的に目標を設定している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		標準のアセスメントツールを用いる場合もあるが、年齢設定や自立度に合ったツールを用いている。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			各々担当プログラムに対し責任を持って取り組んでいる。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			メンバーの課題に応じたプログラムを検討、実施している。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			平日はルーティンワーク、休日はイベント体験、長期休暇は両方の要素を含めたプログラムを構築している。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			集団活動の中で見えてくる個別の課題について個別面談やプログラムでの振り返りを実施している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			プログラム担当間での打ち合わせに加えて、定期的にスタッフミーティングで全体での共有と支援内容のブラッシュアップをおこなっている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			必ず実施し記録を残している。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			日々の支援の振り返りの議事録を残し、そこから必要な情報をアセスメントとして抜粋。適宜保護者や関係機関と連携を取っている。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			保護者とのコミュニケーションを取り必要に応じて相談対応をしている。また、相談支援専門員との情報共有も積極的に行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			既存のものを基本にして、自立度の高い中高生に合わせて行っている。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			最もふさわしい者が必ず参加している。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善項目、工夫している点など
関係機関 や保護者との 連携	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			事業所で見えてきた課題についても共有し、療育の方向性や進路についてなど意見交換をしている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○		主治医と直接連絡を取り合うことが無いので、他の支援機関と連携してすぐに対応できる体制を心掛けている。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか			○	中高生対象のため、就学前の関係機関とは接点がない。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか	○			引き継ぎケース会議などに参加し、必ず情報提供を行っている。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			研修案内を確認し参加するようにしている。
	㉖	放課後等児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		放課後等児童クラブや児童館との交流は無いが、地域のイベントにボランティアとして参加し、地域の子どもたちと交流を行っている。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	○			対象となる児童のケース会議を含めて全会議に出席している。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか		○		画像付きレポートを発信し、迅速な状況変化に対応するように心掛けているが、配信遅れが生じているため改善を続けている。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			保護者会や講師を招いたイベントを実施し、ご家庭の課題に応じて個別支援を実施している。
保護者への 説明責任等	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約時に説明を行っている。
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			電話やメール、突然の訪問などに対応。極力時間や空間を提供できるように努めている。
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			保護者参観や懇談会を定期的実施している。
	㉝	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			相談支援専門員を中心に、関わっている各福祉事業所担当者と連携して対応している。
	㉞	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月活動報告や行事予定を掲載した会報を発行（tunaレター）。保護者に向けたインフォメーションも載せている。
	㉟	個人情報に十分注意しているか	○			ファイルの管理や報告システムのパスワードなど、細心の注意をはらっているが、完璧はないと認識して取り扱っている。
	㊱	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			常に通所している本人と対話をして現状を把握。定期的に面談を行っている。
	㊲	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			事業所主催のボランティア活動やイベントには地域の方々が参加して下さっている。
非常時	㊳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			スタッフマニュアルに掲載。周知している。
	㊴	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			防災についての知識、実践力を向上させるプログラム、イベントを実施している。
	㊵	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			スタッフ研修の際、間違った関わり方（自己満足）に因り、子どもの経験が奪われることは虐待に相当すると示している。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善項目、工夫している点など
等 の 対 応	④①	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○		想定を超える自傷や多害行為の場合、やむを得ず身体拘束を行う可能性は有るが、現在のところ該当児童がいないため、サービス計画には記載していない。
	④②	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○		本人と保護者からの情報を基に対応している。
	④③	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ひとりひとりの事例を個別の記録に残し、配慮事項として共有している。